

年間第14主日の説教

金 大烈 神父 2009年7月5日(日)

《私は“弱い”から“強い”のです》

おはようございます。お元気ですか？

今日も先週と同じように、第2朗読(二コリント 12・7b-10)に私達にとってものすごく意味のある事が書かれています。皆様がどのようにご存じかは分かりませんが、使徒パウロはどのような人だったのでしょうか。結構プライドも高く、自分を自慢する心がとても強かった人です。その人が告白する内容が、今日の第2朗読に書かれています。彼には持病があった様です。現代の医学的には彼が持っていた病がどんな種類の、どの様な病気であったかは分かりません。ただ、彼は永い間、病気を体に持っていたのです。

その彼が何と言いましたか？「私は、3度この病気が癒される様に主に願いました。」しかし、祈りの中で聞いた返事は何でしたか？『あなたには私の恵みが十分にある。だから、あなたのそのとげの様な病を受けとめなさい』と主は言われました。そして、彼は次の様な素晴らしいお話をします。一緒に読みみましょう。

《キリストの力が私の内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、私は弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、(これからが、一番大事な言葉ですよ。) 私は弱い時にこそ強いからです。》

私は、使徒パウロが悟った色々な悟りの中で、これが一番素晴らしいものだと思います。結局、人間は全く同じです。弱い者も強い者も“それはそれ”です。頭が良い者も、理準する能力に遅れがある者も“それはそれ”です。人間は殆ど同じ範囲の中にいます。しかし、ある者は「自分が強い」と言いながら、余り良い心を持たないです。ある者は「自分は弱い者だ」と言いながら、劣等感に囲まれて、いつも否定的な生き方をする人もいます。

皆様、人間は同じです。力があっても無くても“それはそれ”です。賢くても愚かでも“それはそれ”です。ただ、違うのは“ありのまま自分を認める恵み”です。

使徒パウロは、先程私が申し上げたように、自分に対する自慢の心を持っていた人でした。しかし彼は、イエス様に出会った時から、だんだん、自分が何も無い本当に弱い者である事が解る様になりました。“自分の力”によって、何も出来ない事を認める事が出来ました。

皆様、“私”も同じだと思います。私達は、私達が経験している色々な事、倒れる事、ぶつかる事、その中で「自分の能力はこれだけだ」と認める心、「神様が助けてくれなかったら、私は何一つ出来ない」という心、これこそが、私達が一番“強く”なる方法である事が、使徒パウロの口を通じて言われています。

皆様、よく考えてみて下さい。私達は色々な病にかかります。体もだんだん悪くなります。頭も滑らかに回らないです。色々な事を考えてみますと、私達は自分に与えられた限界について本当に解ります。その時こそ、私が頼るところは何処でしょうか。

「イエス様がおっしゃったこの言葉は、この意味だった」と悟るのは、私達の中にある“弱さ”を認める時だと、私は信じます。皆様、その様な意味で“弱さ”は“恵み”です。“弱さ”は“神様に出会う直接の入り口”かも知れません。皆様、悲しく思わないで下さい。「私はこれだけか」、これによって皆様は目が開きます。これが使徒パウロによって話された、真理ではないかと思えます。

さあ、違う話をしてみましょうか。一つ質問をしてみます。「誰でも出来る旅、旅行で、一番長い旅は何でしょうか？」誰でも出来るものです、しかし一番長いものです。その旅は何でしょうか。世界一周の旅ですか？ (信者から「人生？」、「死んでからの旅？」)...

“一番長い旅”、ある本によりますとそれは、“頭から胸(心)”までの旅だそうです。大体、私達は“頭”で判断します。“頭”で世の中を見ます。それまでに集められた情報から、ある意味では論理的に、ある意味では自分勝手に“頭”が動きます。そして判断して、あの人は良い人だ、あの人は悪い人だ、あの人は格好いい、あの人はだめだと言うかも知れません。しかし“胸”が言うのは何の意味でしょうか。“温かさ”ですよね。“頭”で愛の素晴らしさを聞いても、この“胸”が動かなかつたら何の意味もありません。結局私達の旅は、頭から胸までの旅ではないかと思います。これが一番長い旅だそうです。皆様がどの位、頑張るかによって、この旅が短くなるか、そのまま止まってしまうのかが決まるのではないかと思います。

そして、その本を読んで、私はもう一つの旅があると考えました。何でしょうか？ それは“胸”から“足”までの旅ではないかと思います。心でどんなに感動して、それが実践出来なければ、具体的に動かなければ、それは死んでしまった感動でしょう。私達は気の毒な人を見れば、「かわいそうだ」とよく言います。しかし、信仰を持っている私達に託される、イエス様のみ言葉は、「気の毒」「かわいそう」だけでは無く、その人に手を伸ばす事です。

やはり、難しいです。具体的に自分の足を運ぶ事は難しい事です。

ですから、私達は“頭”から“胸”まで、そして“胸”から“足”まで行く旅、“信仰の道”を歩まなければならないのです。皆様、私達は“胸”で感動するだけで終わったら意味がありません。誰でも「あの人はかわいそう」と言えます。それは問題です。私達はそのかわいそうな気持ち、哀れみ深い気持ちが、本物になる為には、やはり動かなければなりません。

私達、一緒に行きましょう。足までの旅をちゃんと果たしましょう。そして、歩いてみてから、「これが本当の喜びだ！」と叫んでみましょう。

ありがとうございました。